

① 施設の概要

名称：広島県厚生農業協同組合連合会尾道総合病院（JA 尾道総合病院）

広島県東部の基幹病院として、二次救急、小児救急拠点病院、災害拠点病院等の指定を受けています。平成 23 年 5 月に現在の場所に新築移転し、病床数を 393 床とし、平成 27 年 4 月には地域救命救急センターを開設し運営しています。

健康管理センターでは、1 日ドックをはじめ、がんドック、協会けんぽ健診、特定健診、特殊健診など施設内で約 8000 件のドックや健診に対応しています。また、近隣の JA 職員や組合員を対象にした巡回健診を年に 100 日程度(約 6000 人)実施しています。

保健師活動としては、院内受診者や地域の特定保健指導対象者への保健指導を年間 70 件以上実施しています。また、近隣 J A の広報誌へ健康づくりの記事を掲載、農業祭での健康相談、J A 単協からの依頼の健康教育講演などに出向いています。

② 特に力を入れて取り組んでいること・コロナの状況になり工夫したことなど

当健康管理センターでは、予防医療に重点をおき、人間ドックや協会けんぽ健診に追加できるオプション検査を豊富に準備しています。(L O X インデックス、S A S 検査、血管年齢、ホルモン年齢検査、骨密度検査、ビタミン D 検査、甲状腺検査など)

また、尾道方式としてよくメディアでも取り上げられる、膵がんの早期発見も病院として力を入れているので、ドックでの腹部超音波検査以外に、M R C P 検査「膵コース」があります。

さらに、病院との併設である強みを生かして、院内各科外来と連携し、当日、要精密検査と判定した方の予約の実施を行い、要精密検査後の受診率アップの取り組みを行っています。

③ 現在の状況下での課題

C O V I D - 19 による対応がよぎなくされるなか、健診システムの入れ替えも重なり、約 3 年経過したところですが、システム上の課題もまだまだあるのが現状です。

施設内では、待ち時間をいかに感じさせない対応をしていくかは長年の課題です。また、特定保健指導の利用率 UP のために、院外での集団指導も検討していますが、利用者の属性や背景、理解度、準備性などが様々で、難しい状況です。

受診者にとって、当施設をまた受けたい、相談したいと思えるようにしていきたいと思っています。